

令和7年度 学校評価報告書

あま市立七宝中学校

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

<p><教育目標> 心豊かで たくましく 創造力のある 人になろう</p>	<p><めざす生徒像> ○深く考え、自ら学び、自己を高める生徒 ○自他のいのちを尊重し、人間性豊かな生徒 ○積極的に心身を鍛え、共に生きぬく生徒 ○地域に目を向け、郷土を愛する生徒</p>
---	--

(2) 本年度の重点努力目標

ア 個を生かす教育の充実

- ㊦ 七つの宝を大切にした教育活動を展開する。①みんなハッピーしっぴータイム、②先手必勝の挨拶、③心を磨く無言清掃、④自信あふれる返事、⑤絆深める合唱、⑥全力パフォーマンス、⑦かけがえのない命を合い言葉に、その実践力の定着を図る。
- ㊧ ICTを活用し、自ら学び自ら考える力の育成を図り、Society5.0時代を生き抜く生徒を育成する。
- ㊨ 特別な支援を必要とする生徒の指導について、校内の支援体制を充実し、教育相談活動などで生徒理解に努め、問題行動や学校不適應の予防に努める。

イ 豊かな心を育てる教育の充実

- ㊦ 生徒指導の充実を図り、「正義がとおる学校づくり」を推進する。
- ㊧ 心に響く道徳授業の工夫や総合的な学習、特別活動での体験的活動の充実などで、「自他の命を大切に作る心」と「思いやりの心」を育む。
- ㊨ 生徒会活動や部活動などを通して、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する。

ウ 健康・安全教育の充実

- ㊦ 生活の中から健康課題を見つけ、その課題の解決に向けて努力する生徒を育てる。
- ㊧ 交通ルールの遵守など「自分の命は自分で守る」という意識を高め、実際に行動できる生徒を育てる。

エ 家庭や地域社会との連携

- ㊦ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の活動を充実させ、地域の各種団体やPTA等と連携を図りながら、積極的に地域の教育力を活用する。
- ㊧ 家庭や地域と連携し、挨拶の励行や交通マナーの向上の取組を進める。また、地域の行事に積極的に参加できるように呼びかけ、地域の信頼に応える。
- ㊨ 学年だよりや学校ホームページなどを通じて学校の情報を家庭・地域に発信し、学校の教育活動の周知に努める。

オ 働き方改革に係る業務改善

- ㊦ タイムカードを活用し、教職員自らが勤務時間の具体的把握に努め、効率のよい執務実現に向けた意識化を図る。

- ④ 一斉退校日や、学年退校日、自主退校日を設定することで、在校時間削減の一助とする。
- ⑤ 一部の教職員に、過重な負担がかからないような適正な校務分掌の割り振りを行うとともに、行事や会議の精選について引き続き検討し改善していく。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和7年11月12日～12月5日
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数
 - ・児童生徒 334名／全367名
 - ・保護者（学校運営協議会委員含む）146名／全335名
 - ・教職員 28名／全28名 計508名

3 調査結果【資料として添付】

4 成果と課題

《成果》

- (1) 「学校生活は楽しい」と感じている生徒の割合が昨年度から高まっている。「学校での授業や生活を通して、成長した、伸びたと感じることもある」生徒の割合も昨年度から高まっており、行事などで味わう達成感を積み重ねたり、生徒の頑張りを教師が価値づけしたりして、成長の自覚につなげることができたといえる。
- (2) 「困っているときに先生に相談することができる」生徒の割合が昨年度から高まっている学年がある。また、「いじめをしない心や命を大切にできる心、思いやりの心をもって友達や周囲の人に接している」生徒の割合が、昨年度から高まっている。教師や生徒同士の温かい人間関係づくりにつなげることができたといえる。
- (3) 「自分には長所がある」と回答した生徒の割合が、昨年度同じ生徒を対象に調査したときの割合から高まっており、自己肯定感、自尊感情を育むことができたといえる。

《課題》

- (1) 「授業が分かりやすく、学習に集中して取り組んでいる」生徒の割合が、昨年度から低くなっているが、「授業を工夫している」教師の割合が昨年度から高まっており、認識のずれが大きくなった。生徒が実感を伴う「わかる」「できる」につながるように、生徒の反応を十分にフィードバックしながら教材研究に励む必要がある。
- (2) きまりを守ってタブレット端末を活用している生徒が多い反面、家庭ではきまりを守ってスマートフォンなどを使えていない現状が、生徒と保護者の認識のずれから浮かび上がった。タブレット端末は学習に利用するものであり、生徒は一定の規範意識をもって利用していると考えられる。しかし、家庭で利用するスマートフォンは、娯楽を目的として利用することがほとんどと考えられ、規範意識が薄れている。また、タブレット端末をうまく活用できていないと回答する教師の割合が高まっており、授業における活用方法についてさらなる研修を積む必要がある。